

## 6 今後の課題

### ～学習支援員の活用を より充実させるために～

#### (1) 組織的な取組

効果的な支援のために、学校全体として共通理解をもって支援体制を整えることが重要になります。また、学習支援員が学校組織の一員という意識をもてるように、学校全体として学習支援員が働きやすい環境づくりを心がけていくことも必要です。

#### (2) 連携をとるための時間

よい支援が行われるためには、教員と支援者の共通理解が必要不可欠です。多忙な中であっても、いかに連携をとるかということ意識し、連携ツールなどを学校の実情に合わせて工夫することが大切です。

#### (3) 『個別の指導計画』の作成と活用

『個別の指導計画』が活用されることにより、支援者と共通理解が図りやすくなり、支援が充実します。具体的な短期目標と支援方法を考え、活用の充実を目指すことが必要です。

#### (4) 発達段階や学級の様子による支援のありかた

集団の中で個を支援するためには、ユニバーサル的な視点が必要です。特別支援教育コーディネーターを中心に、学年や発達段階に応じた支援方法を考え、実践していくことが必要です。

#### (5) 特別支援教室の活用

平成21年度に小中学校全校に特別支援教室を設置しましたが、その活用状況は、学校によって様々です。特別支援教室を効果的に活用できるよう、引き続き工夫をしていくことが望まれます。

#### (6) 学習支援者の人材確保

学校も本人も保護者も、安心して学習支援を依頼できる人材を確保していくことが必要です。学習支援の考え方を身につけられるように、広く研修の機会を活用し、人材を養成することが望まれます。